

6 百田 宗治文学碑

■場所

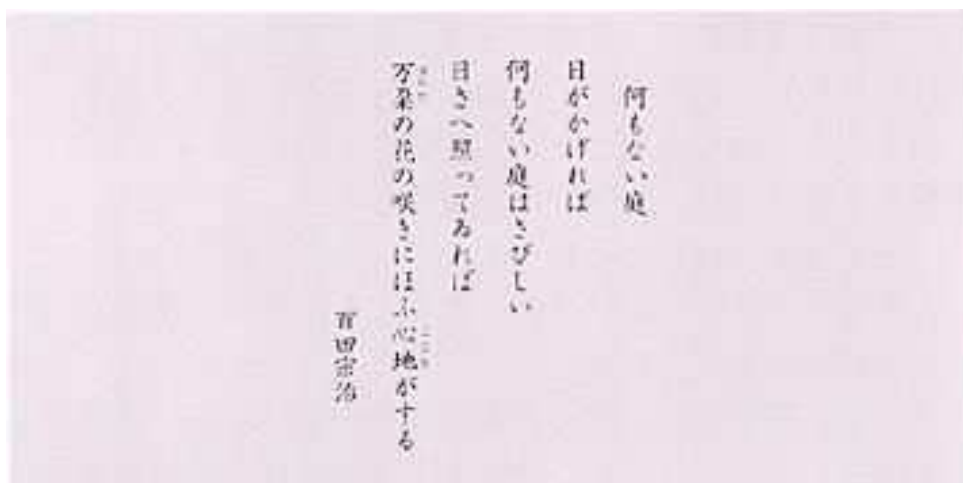
西区新町一丁目

新町北公園内

■交通

地下鉄：四ツ橋・西大橋

(2号出口)(2号出口)



百田 宗治(1893年～1955年)

百田宗治(本名 百田宗次)は、明治26年(1893年)大阪市西区新町通一丁目(現西区新町一丁目)に生まれ、昭和30年(1955年)12月12日死去した。

明治32年、道仁尋常小学校(昭和62年廃校)入学、同38年育英第一高等小学校(昭和12年廃校)卒業後、個人的にフランス語を学んだ。

生まれてから27歳まで、短期間の宝塚居住を除いて大阪に居住し、特に小学校卒業後、伯父の家にひきとられ、西区新町橋近くで多感な少年時代を過ごした。

大正 4 年、初めて百田宗治の名で詩集「最初の一人」を刊行、次いで個人小雑誌「表現」を創刊した。

このころから人道主義、民主主義の傾向に移り、大正 5 年、詩集「一人と全体」の出版によって民衆派詩人として世に認められる。大正 7 年、これら 2 詩集の代表作をも収録した総合詩集「ぬかるみの街道」を出版するに及んで民衆派詩人としての声価を高めた。

その後、「青い翼」「風車」を刊行した。大正 14 年に刊行された詩集「静かなる時」では、内省的で穏健な詩風へと移っている。

大正 15 年、三好達治、丸山薫、北川冬彦など多くの詩人や作家を同人として『椎の木』を創刊、主宰。このころから詩風は一変して、日本的な心境詩に転じ、俳句的味わいを持った閑寂な短詩の出現となった。

昭和 7 年には児童作文の指導詩『工程』に拠って、波多野完治、滑川道夫らとともに全国の小学校教師と連携して綴方運動をはじめ、生涯の仕事となった。

「何もない庭」は、昭和 2 年に刊行された同名の詩集に収められており、この詩人の生涯の頂点をなす澄んだ心境を見せたものと評価されている。

墓所は、千葉県安房郡富山町高崎の海を見下ろす丘。